

上甌島コース

今回、私は上甌診療所に実習させていただきました。そこでは常勤の医師は堀川先生のみでした。先生は元々鹿児島大学病院の一外科に所属していて、8年前に来たそうです。看護師は10名いらっしゃいました。薬剤師はいないのですが院内薬局があるため看護師の方々が薬の管理を行っております。また、検査技師、レントゲン技師もいないため検査等も看護師の方々がすべてやるそうです。検査等は島から送ると時間がかかるためできるだけ完結させ無くてはならず、大抵の検査は行っているそうです。

1日目は診療所に着いてすぐ施設の案内をさせていただきました。その後患者さんのリハビリの見学をさせていただきました。リハビリは月に1度理学療法士の方が来るそうですが、主に患者さんのマッサージや軽いリハビリ指導を行っているそうです。そのため、日頃のリハビリは看護師の方を中心に患者さん自らやるそうです。

2~4日目は終日、外来1人と病棟2人体制で1日交代のローテーションで実習を行いました。外来実習では主に患者さんのバイタル測定、電子カルテの記入、診察の見学をさせていただきました。看護師さんが対応に追われる時もあり、バイタル測定から電子カルテの記入などを自分たちでやらないといけなくなったりと大変でありながらも、貴重な体験をさせていただきました。また、胃カメラやエコーを行なう様子も見学させていただきました。

病棟実習では外来実習と同様、主に環境整理、バイタル測定などをさせていただきました。入院患者の方は9名であり、平均年齢は91歳でした。患者さんの病状は様々でしたが、高齢であるためか、認知症の方や下半身の骨折等をしてる方が多かったです。バイタル測定では耳が聞こえづらかったり、寝たきりだったりする患者さんが多いためバイタル測定に苦労する場面も多かったです。バイタル測定でもとてもいい体験になりました。また、お風呂介助やオムツ交換の手伝いもやらせていただきました。医師になってからはなかなか出来ない貴重な体験となりましたし、看護師の方々の仕事内容やその苦労も体験し感じることができ、とても良い機会になりました。

他にも往診に同行させていただいたり地域診断などもさせていただき、上甌島の住民の方々に触れ合いながら地域とその医療について理解を深めることができました。そして、そこで勤務されている医師の堀川先生や看護師の方々の苦労とやりがいを実感することができ、とても良い機会になりました。

握られた 弱い握力 強い意志

この俳句を今回詠ませていただきました。往診に行った際に先生に促され、患者さんと握手をした際に、力は弱いのですが生きたいというものや、またそれを手伝って欲しいという先生に対する強い意志を感じ、地域で働く医師のやりがいを感じることができたという内容を込めさせていただきました。

離島実習 ～上甌コース～

私は初めての離島実習を上甌診療所でおこなった。今まで離島に行ったことはなく、離島がどのようなところなのか、生活はどのようなもののかなど気になることはたくさんあった。そういう理由で離島実習地が甌島に決定してからとても楽しみにしていた。

まず、甌島への移動について述べようと思う。鹿児島中央駅から JR で川内駅に約一時間かけていった。ちなみに新幹線を使えば約 10 分で行くことができる。それからバスで川内港に行き、高速船に乗り 50 分で上甌島の里港に到着した。思ったよりも早くついて驚いた。そこからは車で 10 分くらいで上甌診療所に到着した。

上甌診療所は外来、入院施設、往診を中心に行っていた。私たちは曜日ごとに外来と病棟を分け、木曜日は先生と看護師さんたちと往診に出向いた。病棟では看護師さんの指示に従ってバイタル測定、おむつ交換、入浴、清拭などを実際に行った。想像以上に体力を使うことに驚いた。また、見学というよりも実際に行おうことが多く最初はわからないこともたくさんあったが、だんだん慣れてきて後半はバイタル測定も自分たちだけで行い、それが記録されるのでかなり責任を感じた。また、少し時間が空いた場合はお話しできるような患者さんと話をする機会もあり、島のことや患者さんの若いころの話などをたくさん聞くことができた。その際に患者さんに「若い子と話したら元気になるわ」といわれて少し地域医療に携わっている感じがした。看護師さんたちは大変な仕事が多く、休む暇もなく働き続けているが、いつも笑顔で接していてすごいなと思った。医療関係者のすべてが本当に地域に密着して働いているような気がした。外来の実習ではバイタルを測定し、それを電子カルテに入力したり、患者さんに最近の調子や悪いところなどを聞き電子カルテに入力する作業を行った。看護師さんや先生も忙しいので自分ひとりでやるのは責任を感じたがなんとかやりこなすことができた。また、胃カメラの様子も実際に見ることもできた。まだまだ分からないことが多かったがこれからの勉強に対するやる気も出てきた。往診では大きな車で狭い道を進んでいき診察に向かった。エアコン装置が設置されているのにもかかわらず、冷房を付けていないような家もあり熱中症の心配もあるというふうに先生もおっしゃっていた。家で治療されている患者さんも往診で先生が来られるとみんな笑顔になっていた。

最後に甌島の地域性などについて述べようと思う。私が予想していた通り高齢化が進んでおり私が外来を担当した日は 10 歳の子供がひとり来ただけで後はもう高齢の方ばかりだった。さらに、上甌診療所のまわりにはお店が二つあったくらいで、そこも午後 7 時に閉まるということで不便だなと思うこともあった。しかし、島民の方々はみんな親切で、歩いていると挨拶をしてくださったりして人情味があふれていると感じた。また、食べ物についても魚介類がとても新鮮でおいしかった。また観光でいくつかの展望台に連れて行ってもらい、海や山の景色を見てあまりのきれいさに感動した。不便なことも多いかもしれないが、それを超えられるような素晴らしいものがたくさんあった。